

行番号	読んだ素材		協力者の発話内容		データ収集者の発話内容	備考
	ページ	文章	発話	日本語訳		
1					録音が始まりました。あらららら。[言葉を調節する。]よし、歌も入っています[笑う]。[協力者が]話しながら質問しますね。	
2			OK, OK.	はい、はい。		
3					読みながら。	
4			Se pravi.	それでは。		
5					えーと、安田先生の論文です。	
6			はい, umm.	「はい」, うーん。		
7					では、よろしく願います。	
8			はい、読みます[日本語で発話する]。	「はい、読みます」。		
9					アクション[笑う]!	
10	p.3	多言語主義の過去と現在——近代日本の場合——	[笑う。]多言語主義と通(過去)を途中で書い]。うーん、の過去と現在[日本語で発話する]。se pravi multilingualizem nekoč in danes. Umm, 近代日本の場合[日本語で発話する]。primer sodobne Japonske.	[笑う。]多言語主義と通(過去)を途中で書い]。うーん、の過去と現在。つまり、昔と今の多言語主義です。うーん[近代日本の場合]。近代日本の場合です。		
11	p.3	はじめに——多言語主義と多言語状況	はじめに、多言語主義と多言語状況[日本語で発話する]。Za uvod, umm, multilingualizem in več jezikovna situacija.	「はじめに、多言語主義と多言語状況」。はじめに、うーん、多言語主義と多言語状況です。		
12	p.3	「多言語主義」ということは、翻訳語である。	[嘆息]、「多言語主義」ということは翻訳語である[日本語で発話する]。se pravi, umm, beseda multilingualizem je prevod, oziroma je prevedena beseda.	[嘆息]、「多言語主義」ということは翻訳語である[日本語で発話する]。つまり、多言語主義というものは翻訳されている、翻訳語です。		
13					A[協力者の名前]さん、多言語主義の過去と現在、ね。	
14			うん[日本語で発話する]。	「うん」。		
15					そこは「の」だよな。	
16			うん[日本語で発話する]。	「うん」。		
17					タイトルに、	
18			Ja.	はい。		
19					でも、スロベニア語では、「の」[?]ないの？	
20			Ne, a ne.	いいえ、ありませんね。		
21					そうね[笑う]。	
22			Ja, tam bi bilo multilingualizem.	はい、そこは多言語主義。		
23					[笑う。]	
24			Nekoč in danes.	昔と今、		
25					はい、これはもつと、	
26			Ali ne zgodovina in soderjost multilingualizmaの可能性があるけど[日本語で発話する]。	あるいは多言語主義の歴史と現在、「の可能性だけど」。		
27					これはもつと、自然な。	
28			Ja.	はい。		
29					スロベニア語ね。	
30			Umm. [笑う。]	うーん。[笑う。]		
31					はい、ありがとう、おもしろい。	
32	p.3	しかもそう古くない。	しかもそう古くない[日本語で発話する]。poles tega ni, ni zelo stara beseda, ne.	しかもそう古くない。その上、ことばがそう古くない、古くないことばですね。		
33	p.3	たとえば、三浦信孝編「多言語主義とは何か」(藤原書店)が出たのは1997年である。	たとえば、三浦[日本語で発話する] nekoč [名前の漢字が読めずに笑う]。	「たとえば、三浦」誰か[名前の漢字が読めずに笑う]。		
34					たぶん信孝[フタカと発音する]。	
35			信孝[フタカと発音し、「編」は読み飛ばす] [日本語で発話する]。aha, ampak ne bom zbiju tega gledati. Ee, [多言語主義とは何か] [日本語で発話する]。ne, 藤原書店, が出たのは1997年である [日本語で発話する]。se pravi leta 97 [1997] je izšla, recimo, od Muru knjige "Kaj je multilingualizem", a ne.	「信孝」[フタカと発音し、「編」は読み飛ばす]。ああ、でも、今はこれが[わからないけど]先に読みます。ええ[フタカ]。『多言語主義とは何か』ね [フタカ]。『藤原書店』が出たのは1997年である。つまり、1997年に、三浦のと書いてみようか。[三浦の本]『多言語主義とは何か』が出ましたね。		
36					読んだことある？	
37			いや[笑う]、知りません[日本語で発話する]。	「いや[笑う]、知りません」。		
38					[笑う。]	
39	p.3	「～とは何か」という表現自体、なじみの薄さを示しているが、「注目の概念」という含みはある。	～とは何かという表現自体、なじみの、umm, 薄さを示しているが、注目の概念[概念]をゆっくりにゆっくりに、含みはある[日本語で発話する]。Se pravi, že to, kaj je, ne, nekaj, ta izraz, ee, kaže na to, da nam, nam ni blizu,なじみの [日本語で発話する]。da, da nisimo, da nam ni blizu, ja.	「～とは何か」という表現自体、なじみの、うーん、薄さを示しているが、注目の概念[概念]をゆっくりにゆっくりに、含みはある。つまり、何かは何なのかですね。この表現[何か]、ええ[フタカ]、なじみのないということも指しています。「なじみの」、私たちが[おそらくスロベニア語で言い換えるようにする]が強中でのやる。この表現[なじみ]がありません。はい。		
40					うん。	
41			Ee, 注目の概念という含みがある[日本語で発話する]。se pravi, da je nek koncept, umm, ne vem, kako bi to prevedel [電子辞書に「注目」を入力して検索する。]	ええ[フタカ]。「注目の概念という含みがある」。つまり、[何か]がある概念、うーん、どうやって翻訳すればいいかわかりません。[電子辞書に「注目」を入力して検索する。]		
42					注目。	

43		まあ、注目は分かりますけど【日本語で発話する】 pay attention to [英語訳を読む] aha, se pravi, bitna koncept, na katerem je treba biti pozoren, ali kakorkoli, no, ne vem, kako reči	「まあ、注目は分かりますけど」 「pay attention to [英語訳を読む]」 ああ、つまり、注目すべき概念とか、どうやって言えばいいかわかりません。			
44				うん。		
45		Ja, ja, ta 電子辞書【日本語で発話する】 uporabjam ne, umm.	はい、はい、この「電子辞書」を使っていますね。 うん。			
46				うん、Casio?		
47	o.3	それでもこのことばがある程度知られるようになったのには、砂野幸雄の整理によれば、「①過去修復型——「国民国家批判」②主権国家の平等型——グローバル化と英語支配への反動」③移民社会への対応——グローバル化と移民労働力」という歴史的背景があるとしている。	Casio, umm, それでもこのことばがある程度知られるようになる【日本語で発話する】。umm, なんだ、ん、のには【日本語で発話する】。umm, [笑う] kaj pa je ta? [砂野幸雄] 砂野 名前前の漢字を抜いて読む【日本語で発話する】。neko ime mogoče, bomo preverili, umm.	Casio, うん、「それでもこのことばがある程度知られるようになる」 うん、「なんだ、ん、のには」 うん、「笑う」これ「砂野幸雄」は何ですか。 「砂野」名前の漢字を抜いて読む、向らかの名前かもしれません。確認します。うん。		
48				ああ、これ?		
49		Ja, umm.	はい、うん。			
50				砂野[スナノと発音する]。うん。		
51		砂野[スナノと発音する]【日本語で発話する】?	「砂野」[スナノと発音する]ですか。			
52				うん。		
53		んん、まあ【日本語で発話する】。	「んん、まあ」。			
54				幸雄[ユキノと発音する]。かな?		
55		Recimo, da je 砂野【日本語で発話する】。ne.	では「砂野」でいきましょうね。			
56				[聞き取り不能。]はい、砂野。		
57		Umm, の整理によれば、①、過去修復型[「型」をケイと発音する]、国民国家批判、②を読み飛ばす主権国家の平等型、グローバル化と英語支配への反動[「反」をゆくり読む]、そして、3つ、移民社会への対応、グローバル化と移民労働力【日本語で発話する】。umm, se pravi, umm, umm, [砂野無音。] Se pravi v kaj besedi, umm, それでもこのことばがある程度知られるようになった【日本語で発話する】。umm, これ【この文】ちよっと難しい【日本語で発話する】。ある程度知られるように【日本語で発話する】。	うん、「の整理によれば、①、過去修復型[「型」をケイと発音する]、国民国家批判、②を読み飛ばす主権国家の平等型、グローバル化と英語支配への反動[「反」をゆくり読む]、そして、3つ、移民社会への対応、グローバル化と移民労働力」 うん、つまり、うん、うん、[砂野無音。]つまり、このことばに、うん、「それでもこのことばがある程度知られるようになった」 うん、「これ【この文】ちよっと難しい」 「ある程度知られるように」			
58				どのことば[「このことば」について問う]?		
59		[質問を「どのことばが難しいのか」と解釈する。]いや、ことばじゃなくて、文です【日本語で発話する】[笑う]。	[質問を「どのことばが難しいのか」と解釈する。]いや、ことばじゃなくて、文です【笑う】。			
60				いやいやいや、うん、これは、うん、「このことば」と書いてあるね。		
61		Aja, to me sprašuješ.	ああ、これについて聞いているんですね。			
62				はい。		
63		Ja, このことば【日本語で発話する】je, umm, 多言語主義【日本語で発話する】。	はい、「このことば」は、うん、「多言語主義」です。			
64				ああ、はい。		
65		このことばがある程度知られるようになった。程度、知られるよう【日本語で発話する】。umm, se pravi, kot razumem, ga ta 砂野 ali kaj, ne, uredi, on to razdeli na tri nivoje, ali kaj, na tri.	「このことばがある程度知られるようになった。程度、知られるよう」 うん、つまり、私が理解したの、この砂野が何かを整理しますね。彼[砂野]が3つのレベルに分けます。あるいは、3つ。			
66				うん、[砂野は]何を整理した?		
67		Pomen te besede, ali kaj, to, ali pa različne stopnje tega multilingvalizma.	このことばの意味です。あるいは、これ、あるいははこの多言語主義の様々な程度。			
68				ああ。		
69		Če prav razumem, ne.	解釈があっていたら。			
70				うん。		
71		Umm, ker 知られるようになった【日本語で発話する】。kdo je zadal, hje je to postalo znano, ampak dobro, ker on naspred pravi, um, kako 修復型【日本語で発話する】。[修復型]bi bil model obujanja preteklosti, ali kaj.	うん、「知られるようになった」というのが、誰がいつこれ知られるようになったのか。た、彼[砂野]はまず、うん、「修復型」がどのように「修復型」が過去を振り返る型[おそらく協力者は「復習する」と思っている]ということですかね。			
72				うん。		
73		Umm, to je kritika nacionalne države.	うん、これは国民国家の批判です。			
74				うん。		
75		Potem 主権国家の平等型【日本語で発話する】。sidi, model egalitarnosti, umm, suverene države, 難しいけど【日本語で発話する】。	あとは「主権国家の平等型」です。これは、主権国家の、うん、平等型です。「難しいけど」。			
76				難しいね[笑う]。		
77		グローバル化と英語支配への反動【日本語で発話する】。in pa seveda, umm, kot reakcija ali kaj, na dominancijo angleščine in globalizacije.	「グローバル化と英語支配への反動」。そして、もちろん、うん、[2つ目は]グローバル化と英語支配への、反応[スロベニア語訳で少し違う]です。			
78				うん。		
79		Tretja točka, 移民社会への対応【日本語で発話する】。se pravi nekaj, kar, umm, ustreza tej, umm, migrirajoči družbi ali kaj, migrantski družbi, umm, se pravi globalizacija in migrantska delovna sila.	3つ目は、「移民社会への対応」。つまり、このうん、移民社会に対応する何かですかね。移民社会に、うん、つまり、グローバル化と移民の労働人口です。			
80				うん。		
81		という歴史的【日本語で発話する】。umm, はい [青]、[けい]、[い]、[素]、これは何でしたっけ、「修復」ですね、「があるとして」【日本語で発話する】。ne, があるとしている【日本語で発話する】。se pravi, da ima ta zgodovinska ozadja, da ima ta koncept ta zgodovinska ozadja.	「という歴史的」 うん、「はい[青]、[けい]、[素]」 これは何でしたっけ、「修復」ですね、「があるとして」【日本語で発話する】。ne, があるとしている【日本語で発話する】。これらの歴史的な背景を、この概念はこれらの歴史的な背景を持っています。			
82				うん、それは誰が言ったの?		
83		Ja ず、砂野【日本語で発話する】。	「ず、砂野」です。			
84				ああ。		
85		Je razdelil torej na tri točke.	[砂野は]すなわち3つの点に分類しました。			

119		ヨーロッパ発のこの[日本語で発話する]。umm, je že, suđi [日本語で発話する], aa, ne, je, je, je, naj bi imel še pač a priori neko pozitivno vrednost, pozitiven pomen, a ne, 肯定的な価値[日本語で発話する]。Umm, in, 特にアフリカ, アジアなどの非ヨーロッパ世界, 現実に最後の方は声が小さくなる。日本語で発話する。] in se je uporabljal za neevropske, ne, umm, prostore, ne, kot pač še posebej Azijo in Afriko.	「ヨーロッパ発のこの」, うーん, はもう「すでに」, ああ, いいえ, これは, は, は, もうすでに, アフリカに何かの肯定的な価値, 肯定的な意味を持っているはずですね。「肯定的な価値」, うーん, そして「特にアフリカ, アジアなどの非ヨーロッパ世界, 現実に最後の方は声が小さくなる」, そして「非ヨーロッパの」, うーん, [非ヨーロッパの] 場所に使われていたね, たとえば, 特にアジアやアフリカで。		
120				うん。	
121		Umm, kjer naj bi se v realnosti, 現象への政策的介入が小さくなる。日本語で発話する。] se pravi, ne bi se ga uporabilo kot ukrep, a ne, za, za pač jezikovne politike ali kakorkoli no, če tako.	うーん, そこ[アジア, アフリカ]で現象に「現象への政策的介入が小さくなる」, つまり, 介入として使われたのですね, 言語政策の介入のために, とか, そういう意味で。		
122					政策的介入ね。
123		Ja, se pravi kot nek, pač ja, pol.	はい, つまりある意味で, はい, 政。		
124					政。
125		Politični ukrep za jezikovna vprašanja.	言語問題のための政策的介入です。		
126	p.3	そして砂野は「多言語主義再考」という書籍を編集した。[日本語で発話する]。In potem je 砂野 pač napisal, oziroma uredil knjigo, ne, Planovni razmislek o multilingualizmu.	「そして砂野は「多言語主義再考」という書籍を編集した」[日本語で発話する]。そして, 砂野は書籍を書きました, 編集したんですね, 多言語主義についての再考[という本]です。		うん。
127					うん。
128	p.3	2012年のことである。[日本語で発話する]。to je bilo leta 2012.	「2012年のことである」, これ[編集]は2012年のことです。		
129					うん, Aさん?
130		Mm.	んん。		
131					ここ, 非ヨーロッパ世界の現象への政策的介入に用いられ始めている。これは言語的で政治的だと思っている[協力者の考えを問う]?
132		Ja, če jaz prav razumem zdaj ta stavek, tukaj je s e vedno malo težko, a ne.	はい, 私がこの文をちゃんと理解していれば, ここはまだ[理解するの]が少し難しいですね。		
133					はい, 言語, この言語とか書いているからね, 言語政策。
134		Ne, on tukaj pravi, つまり[日本語で発話する]。ne, tukaj, pravzaprav gre tukaj za citat, a ne, ker je v navednicah, ne.	ね[ライター], ここで彼[安田]は言っています「つまり」ですね, ここ, 実は引用ですね, 引用符がついてますからね。		
135					はい, ああ。
136		つまり[日本語で発話する]。umm, 基本的にヨーロッパ発のこの[日本語で発話する] multilingualism [英語で発話する]がすでにあなたも[日本語で発話する]。čakaj, kaj je že, あたかも[日本語で発話する]。[電子辞書に「あたかも」を入力して検索する。] Aha, のように[日本語で発話する]。	「つまり」, うーん, 「基本的にヨーロッパ発のこの」 multilingualism [英語で発話する]がすでにあなたも, 待ってください, 「あたかも」は何でしたっけ, [電子辞書に「あたかも」を入力して検索する。]あ, 「の」のよう。		うん。
137					うん。
138		Ali maru de [日本語で発話する]。aha.	か「まるで」, なるほど。		
139		Se pravi, um, je, je, z, ne, se pravi, v osnovi ta multilingualism, ki ožbija iz Evrope, ne, ja, umm, tako rekoč a priori po, ima pozitiven, je s pozitivnim pomenom, a ne, oziroma pozitivno vrednostjo, umm, v, se začel uporabljati v Aziji in Afriki.	つまり, うーん, これはですね, つまり, 基本的にこのヨーロッパ発の多言語主義はですね, いわばアフリカに青, 肯定的, 肯定的な意味を持っていますね, 肯定的な価値を持って, うーん, [アジアとアフリカ]で, アジアとアフリカで用いられ始めました。		
140					うん。
141		Ja, の世界, 現象への政策的介入に[日本語で発話する]。umm, ker pač 介入[日本語で発話する] je neka intervencija ali kaj.	はい, 「の世界, 現象への政策的介入に」, んん, 「介入」は何か介入とかですか。		
142					うん。
143		Ja, se pravi za intervencijo v, v, v, v realnost, ne.	はい, つまり, 現象へ, へ, への介入[に]用いられ始めたのですね。		
144					うん。
145		Pač Azije in Afrike, se pravi, da ne bi bil multilingualism kot neka pozitivna vrednota, a ne, se je, toliko zdaj razumem samo v tem stavku, ne.	アジアとアフリカの「現象」なのです, つまり, 多言語主義が肯定的な価値ではなくてですね, この文からは, これだけ分かりますが。		
146					うん。
147		Se je začel uporabljati kot nek, nek, lahko neka politična intervencija v te države, ki imajo drugačo situacijo kot Evropa, ne, se pravi v Afriki, v Aziji in tako naprej, ne.	ヨーロッパと違う状況のある国へのある, ある, ある政治的介入と言えます, 「政治的介入」として「多言語主義」が用いられ始めたんですね, つまり, アフリカやアジアなどですね。		
148					うん。
149		Nekaj, kar je v osnovi izšlo iz evropskega koncepta, kaj je to multilingualism.	基本的にヨーロッパの概念から生まれたもの, 多言語主義とは何か。		
150					はい, はい。
151		Bom videl, kaj naprej pravi, ne.	[安田が]何を言っているか, これから考えますね。		
152					はい, 分かりました。
153	p.3	多言語主義が問い直されているのだとしたら, 少し設定を変えてみることにしたい。[日本語で発話する]。Um, če hoč, če hočemo ponovno vprašati ali, kako bi to rekel, 問い直す[日本語で発話する]。se pravi ponovno razmisli o multilingualizmu.	うーん, 「多言語主義が問い直されているのだとしたら, 少し設定を変えてみることにしたい」, うーん, もう一度問いたければ, 何と書えはいいのしようか, 「問い直す」, つまり, 多言語主義についてももう一度考え。		
154					問いたければ「ゆっくりと確認して言う」?
155					直されている[日本語で発話する]。
156					「だとしたら」[文章の続きを読む]。
157		Ja, če, umm, če razmislim ponovno ne, ali kaj.	はい, うーん, 問い直せばですね, そういう意味でずか。		
158					うん。
159		Ja, če, če se ponovno vprašam o multilingualizmu.	はい, 多言語主義について問い直せば。		
160					うん。
161		少し設定を[日本語で発話する]。bi rad spremeni nekotič ta [設定] kako bi se 設[日本語で発話する] prevedel. [電子辞書に「設定」を入力して検索する。]	「少し設定を」, 「設定を」少し変えたいです, この「設定」をどう翻訳したいでしょうか, [電子辞書に「設定」を入力して検索する。]		

162		Ja, zdaj, to obstoječo konfiguracijo aš kaj jaz vem kaj.	はい、この今の[既にされてある]設定が何か[協 力者は「設定」のスロベニア語訳に自信がない]。		
163				うん。	
164		Ta ta, ta, ta, to, to, to, to, to situacijo bi nekoliko spremeniti bi rad to malo, malo preoblikoval ne, ta obstoječ [設 定]。	この、この、この、このこの状況を少し「変えて みることにしたい」日本語で発話する。] bi rad to malo, malo preoblikoval ne, ta obstoječ [設 定]。		
165				Aさん?	
166		Ja.	はい。		
167				砂野が書いたのは、何、どれ、うーん。	
168		Tukaj pravi, da se je 9[1997].	ここでは9[1997年][だと書っています]。		
169				2000。	
170		Da je, da je 砂野[日本語で発話する] naprej 97. ga začet, ko je pri 藤原[日本語で発話する] kaj, 書店[日本語で発話する] oddal knjigo.	「砂野」が、が、まず「藤原」、何か、「書店」で本を 出版した1997年に、[活動]を始めた。		
171				これを誰、誰が書いたの?	
172		砂野[日本語で発話する] A, ne, 三浦, ごめんなさい [日本語で発話する], tisto je bil 三浦[日本語で 発話する]。	「砂野」です。あ、いえ、「三浦、ごめんなさい」。 それは「三浦」でした。		
173				そうね、それで。	
174		砂野[日本語で発話する] je potem.	では「砂野」は、		
175				そして、砂野が書いたのは?	
176		To 整理[日本語で発話する] naredil, ne.	この「整理」をしたんですね。		
177				タイトルは?	
178		Naslov je bil, umm, ta, uredil je to knjigo. [多言語 主義再考][日本語で発話する]。	タイトルは、うーん、これ、この本を編集しました。 『多言語主義再考』です。		
179				「再考」ね。	
180		Ja, ponovni razmislek o [多言語主義]。	はい、[多言語主義]についての再考。		
181				はい、だから、「多言語主義が問われているだ としたら」。	
182		Ja.	はい。		
183				これが来ますね。	
184		Ja, zato sem prej tako razumel to, če hošemo torej zares ponovno razmisliti to.	はい、ですから、さっき、これをこのように[153行 目の「変えてみることにしたい」と]理解しました。つ まり、本当に再考したかったら。		
185				ああ、ああ、ああ、なるほど。	
186		Je treba malce spremeniti.	少し変えなければなりません。		
187				うん。	
188		Ta, to konfiguracijo.	この、この設定を。		
189				はい、はい。	
190		Tega, bi rad to spremenil, ne.	これ、これを[安田は]変えたいんですね。		
191				はい。	
192	o.3	まずは「多言語状況のない社会はない」ということを前提としてみる。	「まずは多言語状況のない社会はない」ということを 前提としてみる[日本語で発話する]。No, to je enostavno, se pravi naprej bi rad kot tezo postavil, ne, ali pa kot hipotezo postavim, da 多言 語状況のない社会はない[日本語で発話する]。o ni družbe, ki ne bi imela večjezikovne situacije.	「まずは多言語状況のない社会はない」ということを 前提としてみる。さて、これは簡単です。つまり、 まずは前提として、あるいは仮説として「多言語状 況のない社会はない」、多言語状況のない社会は ないと書っています。	
193				[笑う、]ない社会はない。	
194	o.3	ある社会に生まれ育った個人は、程度はともかくとして多言語を身につけていく。	Ja. [笑う、] Ummm, ある社会に生まれ育った個人 は、程度はともかくとして多言語を身につけていく [日本語で発話する]。Se pravi individuum, posameznik, ki se je rodil v določeni družbi in tam odrasel, ne, seveda, 程度はともかくとして[日本語 で発話する]。ni vem, zdaj, to je, to pomeni kot, odvisno seveda od stopnje tega, ne.	はい、[笑う、]うーん、「ある社会に生まれ育った 個人は、程度はともかくとして多言語を身につけて いく」、つまり、個人、ある社会で生まれ育った個人 はですね。もちろん、「程度はともかくとして」、分か りません。これは、この意味は、もちろんその程度 によりますね。	
195				うん。	
196		Ampak na nek način si pridobi večjezikovnost.	しかし、何らかの方法で多言語主義を身につけま す。		
197				うん、何による?	
198		Ne vem, てい、程度はともかくとして[日本語で発 話する]。ne znam čisto dobro prevesti, no.	分かりません、「てい、程度はともかくとして」、上半 く翻訳できないんです。		
199				なるほど。	
200		Ampak kot razumem jaz, je 多言語を身につけて いく[日本語で発話する]。	でも、私に理解できる限りでは「多言語を身につ けていく」。		
201				うん。	
202		Se pravi posameznik, ki se je rodil v neki družbi, si pridobi, ne.	つまり、ある社会で生まれた個人は身につけま すね。		
203		Večjezikovnost, Ampak 程度はともかくとして[日 本語で発話する]。[笑う、] A to pomeni, zdaj, ok, stopnja je lahko različna, ampak.	多言語主義を。しかし、「程度はともかくとして」。 [笑う、]これの意味は、程度は違っても、		
204				はい、はい、そう。	
205		Ampak dejstvo je, da vsak to pridobi, a ne.	事実誰でも身につけるということですね。		
206				はい、はい、はい、多かれ少なかれ。	
207		Več aš manj, no, saj to mislim.	多かれ少なかれ、そう、そう言いたかったのです。		
208				はい。	
209		Ovisno od stopnje, pač, umm, ampak, no, saj prav o tem, sem prav razumel.	程度はともかく、うーん、でも、まあ、これについて は正しく理解しました。		
210				うん、分かりました。	

211	p.3	この場合の「言語」の定義は、少し曖昧にしておく。	この場合の言語の定義は少し曖昧にしておく【日本語で発話する】。V tem primeru bom seveda pač definirjal jezič. ne. bom zamenkrat pustil nekako ambivalentno.	「この場合の言語の定義は少し曖昧にしておく」。この場合はもちろん言語、言語の定義をですね。今のところ向か曖昧のまま残しておきます。	
212			Ali kako naj, ne, ne, ne, ja.	あるいはどうやって、いいえ、いいえ、はい。	
213					「にしておく。ね？」
214			Ja.	はい。	
215					はい。
216	p.3	さまざまな「方言」——地域方言や社会方言などを含む「変種」といいかえてもよい——も、それぞれが「言語」となれば、多言語状況のない社会はない、といえる。	さまざまな方言、地域方言や【日本語で発話する】。umm, 社会方言などを含む変種【おそろしく読み方が不確かなため、収集者に向かって聞いてながら読む、日本語で発話する】。	「さまざまな方言、地域方言や」、うーん、「社会方言などを含む変種【おそろしく読み方が不確かなため、収集者に向かって聞いてながら読む】」。	
217					うん。
218			と言い換えてよい【日本語で発話する】。se pravi razni dialekti, se pravi razna narečja, pokrajinska narečja, potem bi temu lahko rekli socioketi, a ne, 社会方言【日本語で発話する】。	「と言い換えてよい」、つまり、さまざまな「方言」外来語「dialekti」で言う、つまり、さまざまな「方言」、固有語「narečja」で言う、地域の方、つまり、社会方言と言えますね。「社会方言」。	
219					うん。
220			などを含む【日本語で発話する】。se pravi vse to, kar vključujejo te, ta, 変種【日本語で発話する】。se pravi, 【電子辞書に「変種」を入力して検索する。】	「などを含む」、つまり、この「変種」を含む全て、つまり、【電子辞書に「変種」を入力して検索する。】	
221					辞書【疚く】。
222			Se pravi, umm, ja, raznolikost torej, ne.	つまり、うーん、はい、つまり、多様性ですね。	
223					うん。
224			Ta različnost, ne.	この変種ですね。	
225					うん。
226			Ta 変種【日本語で発話する】。ki jo ta jezikovna različnost vsebuje.	この「変種」、この言語変種を含む、	
227					うん。
228			と言い換えてよい【日本語で発話する】。それぞれが「言語」となれば【日本語で発話する】。če vse to razumemo kot jezike, a ne.	「と言い換えてよい」。「それぞれが言語である」とすれば、これを全部言語だとすればですね。	
229					うん。
230			多言語の状況のない社会はない【日本語で発話する】。V tem primeru seveda ni družbe, ki ne bi imela večjezikovne situacije.	多言語の状況のない社会はない。この場合、多言語状況のない社会はもちろんありません。	
231					うん、まさにそうね。
232			Ja, といえる【日本語で発話する】。	はい、「といえる」。	
233					といえる。
234			Lahko rečemo, ne.	と言えますね。	
235					うん。
236	p.3	このことが問題になるのは、どの時代にもどの地域にもある多言語状況が、さまざまな主体によってさまざまに解釈されるからである。	Umm, このことが問題になるのはどの時代にもどの地域にもある多言語状況が様々な主体によってさまざまな【日本語で発話する】。umm, さまざま、さまざまに解釈されるからである【日本語で発話する】。Se pravi, umm.	うーん、「このことが問題になるのはどの時代にもどの地域にもある多言語状況がさまざまな主体によってさまざまに」。うーん、「さまざま、さまざまに解釈されるからである」。つまり、うーん。	
237					ふうん。
238			Ta to postane, このことが問題になるのは【日本語で読んでいる】。to postane problem, 【4秒間無音。】 Se pravi v vseh obdobjih in na vseh področjih, ne, kjer obstaja ta večjezikovna situacija ne.	この、これは【問題】になります。「このことが問題になるのは【読んでいる】」。これが問題になるのは、【4秒間無音。】つまり、この多言語状況が存在している、すべての時代とすべての地域ですね。	
239					うん。
240			Je pač od različnih od, umm, 主体【日本語で読む】。umm, 【電子辞書に「主体」を入力して検索する。】 主体【日本語で発話する】。hmm, jedro ali kaj tujka 主体【日本語で発話する】。pomeni, ampak, se pravi, ampak, kakor jaz razumem, je to pač odvisno seveda od tega, kako, mislim, se različno interpretira ta situacija, ne.	「ここでは」様々な、うーん、「主体【読む】」。うーん、「電子辞書に「主体」を入力して検索する。」「主体」。ふうん、「主体」は、核心かまたは、どういう意味ですか、個々の、でも、つまり、でも、私が理解している限りでは、これはもちろんこのように【解釈する】か】によります。この状況は様々な方法で解釈するんですね。	
241					うん。
242			問【「問題」を日本語で言おうとするが途中でやめる】。problem je torej v tem, da v različnih dobach in v različnih področjih, kjer je pač ta multjezikovna situacija, je seveda odvisno od tega, kako jo interpretiramo, a ne, zdaj pa, umm, この主体は具体的に何を指す、ちよ、ちよと分からない【日本語で発話する】。	問【「問題」と言おうとするが途中でやめる】。問題はつまり、この多言語状況のある様々な時代の様々な地域で、もちろんその【状況の】解釈によりますが、うーん、「この主体は具体的に何を指す、ちよ、ちよと分からない」。	
243					誰が解釈する？
244			Kdo interpretira ali kaj? A to je pač, ja, samo to, ali kaj pomeni?	誰が解釈するか、ですか、これは、はい、これだけです、それとも何か意味がありますか？	
245					される？こう「解釈される」だと？
246			さまざまな主体によってさまざまに解釈される【日本語で発話する】。ne.	「さまざまな主体によってさまざまに解釈される」ですね。	
247					うん。
248			Se pravi odvisno od tega 【主体】。	つまり、この【主体】によります。	
249					主体に？
250			主体【日本語で発話する】。ja, ampak, それは具体的に何【日本語で発話する】。	「主体」、はい、でも、「それは具体的に何」。	
251					【笑う。】
252			ちよとわからないけどね【日本語で発話する】。ampak, ne, je odvisna interpretacija, se različno interpretira.	「ちよとわからないけどね」。しかし、そうではなくて、解釈、様々な解釈されます。	
253					はい。

291		Jaj, kaj, kaj, kaj, namreč ja, težko je zdaj, aha, v bistvu to, da on, če pravi, umm, če multilingualizem razumemo kot univerzalno situacijo, ne.	はい、何、何が、はい、難しいのは、ああ、委するにこれが、彼[安田]が言っている。うーん、多言語主義を普遍的な状況としてとらえればですね。			
292				はい、これは分かったんだよね。		
293		Ja, potem, in potem moramo kot zdaj že ta 指針とすること[日本語で発話する], ne.	はい、そして、そして、この「指針とすること」と同じようにですね。			
294				うん。		
295		kaj, če že multilingualizem razumemo kot nek kompas ali kaj.	何か、多言語主義をすでに方位磁石として解釈しているのだとしたら、とかですか。			
296				うん。		
297		Kot iglo v Aziji in Afriki, potem.	アジアとアフリカでの指針として、そして、			
298				こども分かった。		
299		sem razumel, da, kaj potem zdaj, kaj ta 手順[日本語で発話する], ali tukaj gre za to, da moramo, kaj točno ta 手順[日本語で発話する] pomeni, ni	分かったのは、何か、そして、この「手順」が、ここは、しなければならぬということですか[何をしなければならぬのかは言わない]、この「手順」の厳密な意味ですね。			
300				ああ、ああ、ああ、「手順」ということを調べていた。		
301		Ja.	はい。			
302				そして、意味は分かったけど。		
303		In da je proces, procedura, red, steps[英語で発話する], ne, se pravi koraki, arrangement[英語で発話する], ampak zdaj 具体的にはよって[日本語で発話する].	そして、「手順」が「過程、手順、順序や steps[英語で発話する]」ということですね。つまり、「手順、arrangement[英語で発話する]」、でも、今「具体的にはよって」。			
304				何の手順。		
305		何の手順はちょっとわからないね[日本語で発話する], ampak mogoče v nadejevanju pa pove, ne.	「何の手順はちょっとわからないね」、でも、もしかしたら[記事の]続きに書いてあるかもしれませんね。			
306				うん。		
307	p.3	もちろん、というべきか、手順をまちがえた議論もある。	「もちろん」と言うべきか手順を間違えた議論もある[日本語で発話する]。[笑う。] No, seveda.	「もちろん」と言うべきか手順を間違えた議論もある。[笑う。]まあ、もちろん。		
308				また手順。		
309		ne? Umm, so tudi seveda, umm, argumenti, a ne.	ね? うーん、もちろん、うーん、議論もありますね。			
310				うん。		
311		Teze, ki, ki, ki postavijo napačen, napačen pač postopek ali pa napačen red, pač ta 手順[日本語で発話する] ne.	間違っている、間違っている、その、手順、あるいは間違っている手順や順序を示す議論もあります。この「手順」ですね。			
312				うん。		
313		と言うべきか[日本語で発話する]。[聞き取り不能。] Ne vam točno.	「と言うべきか」。[聞き取り不能。]よく分かりません。			
314				どうして[笑う]。		
315	p.3	日本社会の多言語化を新しい出来事としてとらえる立場である。	Ja, 日本社会の多言語化を新しい[日本語で発話する], umm, 出来事としてとらえる立場である[日本語で発話する]。Se pravi, umm, umm, ne, japonska dru, umm, pač več, večjezikovnost, to pa je postajanje večjezikovnosti ali kaj japonske družbe, se [日本語で発話する], um, um, ne, da, da, da razumemo recimo večjezikovnost ali pa nastajanje večjezikovnosti v japonski družbi kot nek nov dogodek, ne, kot 新しい出来事としてとらえる[日本語で発話する], umm, 立場である[日本語で発話する], ne.	ふん、「日本社会の多言語化を新しい」、うーん、「出来事としてとらえる立場である」、つまり、うーん、うーん、「[フイラー]、日本の社会」、うーん、その、多言語主義、その日本社会の多言語化とかを、うーん、うーん、ね[フイラー]、多言語主義あるいは日本社会の多言語化を新しい出来事としてとらえるですね。「新しい出来事としてとらえる」、うーん、「立場である」ですね。		
316				うん。		
317		To je recimo, je, je takšen, tako stalšče, ki razume večjezikovnost v japonski družbi kot nekaj novega.	これはたとえば、日本社会における多言語化を新しい出来事としてとらえるといううな、このような立場です。			
318	p.3	「単一民族・単一言語国家日本」を前提とした立論である。	「単一民族・単一言語国家日本を前提とした。」「うーん、[立論]でしたか、これは。[電子辞書に「立論」を入力して検索する。]			
319				うん。		
320		Jja argu, to je tudi pač kot 議論[日本語で発話する] ali kaj, podobno.	ああ、議、これも「議論」が何か[議論]に似ています。			
321				うん。		
322		違いが分からないけど[日本語で発話する][笑う]。	「違いが分からないけど」[笑う]。			
323				[笑う。]		
324		Se pravi, umm, ne, to, to, to, je, to, je argument, ki, ki, ki izhaja iz teze o homogenem narodu in enotnem nacionalnem, ne, 単一言語国家[日本語で発話する], se pravi državi, Japonski kot državi z enotnim jezikom.	つまり、うーん、ね[フイラー]、これ、これは、これは議論、単一民族と単一言語[おそらく]は「国家」のことですね。「単一言語国家」、つまり、単一言語を用いる国としての日本国という前提から成り立つ議論です。			
325	p.3-4	それゆえ、「多言語社会がやってきた」という本を「日本が多言語社会に向いてきた」という本と区別して読む。共通理解として日本が多言語社会に向か、向かいつつある[日本語で発話する], umm, umm, 同化主義よりも多言語主義が[日本語で発話する], umm, 正しい、言語は平等であるというような現、現状認識[笑う] をもっているという[日本語で発話する]。ええ、ええ、また良い[日本語で発話する]。Umm, poleg tega, ne, povzru [多言語社会がやってきた][日本語で発話する], ne, Prišlo je do večjezikovne družbe ali pa kaj takega.	「それゆえ、「多言語社会がやってきた」という本を「日本が多言語社会に向いてきた」という本と区別して読む。共通理解として日本が多言語社会に向か、向かいつつある」。うーん、うーん、「同化主義よりも多言語主義が」。うーん、「正しい、言語は平等である」というような現、現状認識[笑う]をもっているという。[ええ、ええ、また良い]。うーん、そして、ですね、そのうえ、「多言語社会がやってきた」ですね。多言語社会がやってきたとか何か。			
326				うん。		
327		という本[日本語で発話する], se pravi avtorji take knjige, ne, te knjige pišejo, umm, ne, poleg tega avtorji knjige Prišla je večjezikovna družba ali kakorkoli.	「という本」、つまり、このような本の執筆者たちですね。この本を書きます。うーん、ね[フイラー]、その上、多言語社会がやってきたとか何かという本の執筆者たち。			
328				うん。		
329		普通[「共」を「普」と読み間違える]理解として日本が多言語社会に向かいつつある[日本語で発話する], aha, umm, 普通[「共」を「普」と読み間違える]理解として[日本語で発話する], kot splošno.	「普通[「共」を「普」と読み間違える]理解として日本が多言語社会に向かいつつある」。ああ、ん、普通[「共」を「普」と読み間違える]理解として、一般的に、			
330				ここは変わ。		
331		Ja.	はい。			

332					括弧が、	
333			Umm.	うん。		
334					つまり、括弧が2つある。	
335			Zgleda, da je pač oklepaj, potem sta pa noter, potem so pa noter trije vmesni oklepaji do končnega zaklepaja, mislim, da je to tako.	まずはか平括弧があって、そして、その中に「括弧が」2つあって、最後の終わりか平括弧まで、中に3つの括弧があるみたいです。そうだと思います。		
336					はい。	
337			Ne vidim, da je da je 普通「共」を「音」と読み間違える]理解として[日本語で発話する]. potem so pa tak, tak, tak, tak [括弧を指す].	ですね。ほら、ここは、ここは「普通「共」を「音」と読み間違える]理解として、そして、そのあとはこう、こう、こう、こう[括弧を指す]。		
338					共通理解ね。	
339			というような現状認識[日本語で発話する].	「というような現状認識」。		
340					はい。	
341			Tam je pa zaklepaj, ne.	そこは、終わりか平括弧なのでですね。		
342					はい、終わりか平括弧、はい。	
343			Vmes so pa trije koncepti ali kaj, ki pravijo, Japan je mnogojazyčna spoločnosť [日本語で発話する], se pravi Japonsko, ne, postaja večjazykova družba.	その「括弧の中」に3つの概念があるということですか。「日本が多言語社会に向かいつつある」とつまり、日本が多言語社会に向かいつつある」という概念」。		
344					うん。	
345			Ali pa 同化主義よりも[日本語で発話する]. zdaj to je, 同化主義[日本語で発話する], a je to homo [おそらく均一化のこと]. umm. [電子辞書に「同化」を入力して検索する.] To je, aha, asimilacija bi rekli, ne.	あるいは「同化主義よりも」まあ、これは「同化主義」、これは均「おそらく均一化のこと」。うん。[電子辞書に「同化」を入力して検索する。]これは、ああ、同化のことですね。		
346					ああ、「同化」なのかと想っていた？	
347			Ja, zdaj [同化[日本語で発話する]] je pač lahko asimilacija, ne, zdaj, da tudi, da se nekaj prilagodi pa tako, a ne.	はい、うん、「同化」は同化という意味もありますね。そして、何かが適応するとかですね。		
348					うん。	
349			In 同化主義[日本語で発話する] bi potemtakem pomenilo,	したがって「同化主義」の意味は、		
350					うん、なるほど。	
351			Ja, ja, se pravi bolj kot asimilacija, ne.	はい、はい、つまり、[適応の方ではなく]同化の方ですね。		
352					うん。	
353			Je zaželen multilingvalizem, ne.	多言語主義が望ましいですね。		
354					うん。	
355			In pa 言語は平等である[日本語で発話する]. in jezik so si enakovredni, a ne.	そして、「言語は平等である」。言語は平等ですね。		
356					うん。	
357			というような現状認識[日本語で発話する]. kaj je [おそらく現状]を入力して検索する。]	「というような現状認識」、これは何ですか。[おそらく「現状」を入力して検索する。]		
358					ああ、ここまでね。	
359			Ja.	はい。		
360					そして、ここで括弧が閉じる。	
361			Ja.	はい。		
362					ああ、分かりました。	
363			Aha, to je 現状[日本語で発話する]. to, to, torej, どのような現状認識を持っている[日本語で発話する]. imajo torej zavest o sedanjosti kot taki, ne.	ああ、これが「現状」です。と、と、つまり、「どのような現状認識を持っている」、つまり、このような現状についての認識を持っているんですね。		
364					うん。	
365			Kot pač nekaj, kar se v teh, teh konceptih pojavlja, ne, se pravi, da so jeziki enakovredni, da bolj kot asimilacija je, je, je, zaželena multilingvalnost, in da Japonska postaja multilingvalna družba.	これらの、これらの概念に現れる何か[現状認識のこと]を持っている[多義的]ですね。つまり、言語が平等[という概念]、同化より多言語主義の方が、が、望ましい[という概念]。そして、日本が多言語社会になっている[という概念]です。		
366					うん。	
367	p.4	かれらが現在の日本の多言語状況を解説すると、こんな感じになる。	Mmm. 彼らが現在の日本の多言語状況を[日本語で発話する]. umm. 解説すると、こんな感じになる[日本語で発話する].	うん、彼らが現在の日本の多言語状況を、うん、「解説すると、こんな感じになる」。		
368					うん。	
369			Se pravi, no, in oni na ta način raz[lagajo]. pojavljajo večjazykovo v trenutni, sodobni Japonski.	つまり、はい、そして、彼らは現在、現代日本の多言語主義[おそらく多言語状況]をこのように解[解説]、説明しています。		
370					うん。	
371	p.4	日本を取り巻く言語環境が急速に変化しつつあります。	[「ため息。」]日本を取り「巻く」を読み飛ばす]言語環境が[日本語で発話する]「文の動きを掴む」[「読む」]. se pravi, mmm, kaj pa, kaj je, se to neposredno, 取り[日本語で発話する]. [電子辞書に「取り巻く」を入力して検索する.]	[「ため息。」]日本を取り「巻く」を読み飛ばす]言語環境が「文の動きを掴む」[「読む」]。つまり、うん、何、何が、これも読めます。「取り」[電子辞書に「取り巻く」を入力して検索する。]		
372					ああ、取り巻く。	
373			巻く[日本語で発話する].	「巻く」。		
374					うん。	
375			Aha, to je, aha, obkrožati z, z, aha, amm, se pravi jezikovno okolje, ki obkroža Japonsko, ne, se hitro spreminja.	ああ、これは、ああ、取り巻く、ああ、あ、つまり、日本を取り巻く言語環境がですね、急速に変化しています。		
376					うん。	
377	p.4	それは一言で言えば、様々な民族が日本に移住してきて、急速に多言語社会になりつつあるということです。	[「文を解説する。」] Če torej povemo z eno besedo, a ne, različni ljudje različnih narodnosti prihajajo na Japonsko, ne, in, umm, 急速に多言語社会になりつつあるということですね[日本語で発話する]. in, in pač Japonska hitro postaja večjazykova družba.	「文を解説する。」つまり、一言で言えばですね、様々な民族の様々な人間が日本に移住してきてですね。うん、「急速に多言語社会になりつつある」ということですね。そして、日本は急速に多言語社会になっています。		

378				うん。	
379	p.4	[……]そのことから、言語に関して数多くの問題が生じてきています。	Umm, その事から、言語に関して数多く(スウオクと発音する)の問題が生じてきています[日本語で発音する]。Aha, iz te situacije, a ne, se porajajo tevini problemi, ki se tičejo jezika.	うーん、「その事から、言語に関して数多く(スウオクと発音する)の問題が生じてきています」。ああ、この状況からですね、言語に関して多くの問題が生じてきています。	
380				うん。	
381			Umm.	うーん。	
382				うーん。あと、数多く(カズオオクと正しく発音し、協力者に伝える)ね。	
383			Stevini?	多くの[という意味]ですか。	
384				はい、はい、はい、意味は大丈夫。	
385			Ja.	はい。	
386				意味は分かっているけど、数多く(カズオオクと発音する)と。	
387			Kaj sem pa jaz rekel?	私は何と言いましたか。	
388				数多く(スウオクと発音する)。	
389			Aa, sembral, sploh nisem vedel, da sem naglas prebral.	ああ、読んで、声に出したとは、全く気付いていませんでした。	
390				ああ[笑う]。	
391			数多く[日本語で発音する]。ja.	「数多く」、はい。	
392				無意識に。	
393	p.4	これは、私たちが21世紀を生き抜いていくためには取り組まなければならない問題なのです。	Ja, Ah[ため息]。[「これは」を読み飛ばす]「私たちが21世紀を生き抜いていく[「抜いて」]のところで少し迷う]ためには、取り[「抜き」は聞き取り不能] [日本語で発音する]。Umm, se pravi, ne, se pojavljajo številni problemi, ki se tičejo jezika, a ne.	はい、「ああ[ため息]。[「これは」を読み飛ばす]「私たちが21世紀を生き抜いていく[「抜いて」]のところで少し迷う]ためには、取り[「抜き」は聞き取り不能]」。うーん、つまり、ですね、言語に関する様々な問題が生じてきています。	
394				うん。	
395			Umm. [4秒間無音...] Kaj je to '生き抜く' [日本語で発音する]。[電子辞書に「生き抜く」を入力して検索する。] Ti sestavljeni glagoli so vedno [笑う] te žki meni.	うーん。[4秒間無音。]「生き抜く」、これはどういう意味ですか。[電子辞書に「生き抜く」を入力して検索する。]この複合動詞は、いつも[笑う]難しいんです。	
396				どの動詞?	
397			Ja, ti '生き抜く' [日本語で発音する] ali pa prej sem.	まあ、この「生き抜く」とか、さっきの。	
398				ああ、はい、これ聞きたかった。	
399			mei 取り、取り巻く[日本語で発音する]。	「取り、取り巻く」がありました。	
400				取り巻くね。	
401			Ker imaš nek pa še nek glagol in zdaj to, この2つ合わせて[日本語で発音する]。	何か[動詞]プラス[もう1つ]動詞がありますから。そして、この、「この2つ合わせて」。	
402				どういう意味になる、ね。	
403			Kakšen pomen nastane, ja.	どういう意味になるか、はい。	
404				ね。	
405			In če ga ne poznam, mi je težko razumeti.	そして、知らなければ、理解しづらいです。	
406				はい、分かりました。	
407			In '生き抜く' [日本語で発音する] je, aha, živeti skozi nekaj, preživeti recimo vojno ali pa.	そして、「生き抜く」は、ああ、何かを生き抜くこと、戦争を生き抜くとか。	
408				そう。	
409			nesrečo ali pa nekaj.	事故とか。	
410				問題のある社会とか。	
411			'生き抜く' [日本語で発音する]。ja. Se pravi, in to pač, ne, to je torej nekaj, kar za nas, ki moramo preživeti skozi 21. Stoletje, ne.	「生き抜く」、はい、つまり、これはですね、これはつまり、21世紀を生き抜かなければならない私たちにとって。	
412				うん。	
413			[「には」日本語で発音する]。to je nekaj, problem, s katerim se moramo mi spopasti, ali pa tako.	「には」、何か、向き合わなければならない問題なのです、というような。	
414				またこれね、取り組まなければ。	
415			Ja to, to je '取り込む' [日本語で発音する]。「取り込む」を「取り込む」と間違える。[電子辞書で「取り込む」を入力して検索する。] Take in[英語で発音する]。ne, ker tudi pomeni so tukaj različni v slovarju.	はい、これ、これは、「取り込む」[「取り込む」を「取り込む」と間違える]。[電子辞書で「取り込む」を入力して検索する。]「Take in[英語で発音する]」ですね。辞書に意味も色々あります。	
416				意味が多い?	
417			Hja, pod 1 take in, bring in, put into use, introduce, bring in[英語で発音する]。pod 2 be in confusion, have one's head full, mm, bring over[英語で発音する]。ja različni pomeni, pa zelo težko [日本語で発音する]。ne, tako da vedno, take sestavljene glagole včasih težko zares [スロベニア語で動詞を言わない]「おそらく理解すること、翻訳することが難しい」。	まあ、1は「take in, bring in, put into use, introduce, bring in[英語で発音する]」、2は「be in confusion, have one's head full, mm, bring over[英語で発音する]」。はい、様々な意味があっつ。そして、とても曖昧ですね。ですから、いつも、こういう複合動詞を持つな[おそらく理解すること、翻訳することが難しいと言いたい]本当に。	
418				[笑う。]	
419			Samo če je stavek dovolj jase, ga, ga razumem, ne.	でも、文が十分明確であれば分かりますね。	
420				はい。	
421			Ampak jaz mislim, da tukaj pravi, ne, to pač za nas, ki moramo živeti skozi 21. Stoletje, ne.	でも、ここはこう言っていると思いますね。21世紀を生き抜かなければならない私たちにとってですね。	
422				うん。	
423			ためには取り組まなければならない問題なのです [日本語で発音する]。je to pač nek problem, ki ga moramo nekako, ne, se soočiti z njim.	「ためには取り組まなければならない問題なのです」。これはつまり、何かの、何とか[解決しなければ]ならない、向き合わなければならない問題です。	
424				はい、はい。	
425			Ga rešit, kaj jaz vem, kaj.	解決しなければならぬとか。	

426					解くのね。	
427			Ja.		はい。	
428					考えなければならぬ。何というか、向き合わなければいけない。	
429	p.4	(……)言語政策の立場から、多言語社会のなかで起こりうる問題の解決に向けて何らかの展望を与えること、それがこの本の目的です。	Se pravi, umm, 言語政策の立場から[日本語で発話する], umm, 多言語社会のなかで起こりうる問題の解決に向けて何らかの、何らかの、て、て、てん、てん、これ[展望][日本語で発話する], kaj je za to, てんどう、てんば、てん[日本語で発話する].	つまり、うーん、「言語政策の立場から」、うーん、「多言語社会のなかで起こりうる問題の解決に向けて何らかの、何らかの、て、て、てん、てん、これ[展望]は何でしたっけ。」「てんどう、てんば、てん。」		
430					がんばれ[笑う]。	
431			普知ってたけど[日本語で発話する][笑う]。		「普知ってたけど[笑う]。」	
432					[笑う。]	
433			てん[日本語で発話する]。[聞き取り不能。] A to je, to je.		「てん。[聞き取り不能。]これは、これは。」	
434					これは、これは。	
435			Tieto.		あれ。	
436					がんばれ[笑う]。	
437			普知ってたけど[日本語で発話する][笑う]。		「普知ってたけど[笑う]。」	
438					がんばれ[笑う]。	
439			A ne? Ja. Ampak kaj je za 普読み[日本語で発話する], てん[日本語で発話する], a pogledam?		ですよ。はい、でも「普読み」は何でしたか。「てん」。調べますか。	
440					はい、調べて[笑う]。	
441			[笑う。][電子辞書で間違った読み方を入力して検索する。] Ne ni ne, kaj je to, てん[日本語で発話する], sh, moram napisati. [タッチペンで漢字をそれぞれ書いて検索する。] Bom pisal, umm, zakaj sem posabil kaj je ta, 望 [ノミと発話する][日本語で発話する]。展望[日本語で発話する], ja, saj se mi je zdelo, da, ne, ne, 展望[日本語で発話する]。	[笑う。][電子辞書で間違った読み方を入力して検索する。]いいえ、ありません、いいえ、聞いたか。「てん」。まあ、書くかいです。[タッチペンで漢字をそれぞれ書いて検索する。]書きます。うーん、何でこれを忘れたんだろ。「望」[ノミと発話する]。「展望」は、い、そうだろうと思っていましたね。「展望」。		
442					うん、普勉強した。	
443			展望、展望[日本語で発話する], je [笑う]。		「展望、展望」、はい[笑う]。	
444					[笑う。]	
445			展望[日本語で発話する], se pravi, amm, 言語政策の立場から[日本語で発話する], se pravi s staljše jezikovnih, jezikovne politike recimo, ali pa a, ne, umm, umm, aa, se pravi 多言語社会の中で起こりうる問題の解決[日本語で発話する], 続きを聞いて読む], se pravi se za, za, proti, da gremo proti rešitvi problemov, ki se pojavljajo, umm, ki se lahko pojavijo v večjezičnih skupnostih, a ne.	「展望」、つまり、あ、あ、「言語政策の立場から」、つまり、言語の立場から、言語、言語政策と言いますが、あるいは、あ、いいえ、うーん、うーん、あ、あ、つまり、「多言語社会の中で起こりうる問題の解決」[続きを聞いて読む]、つまり、多言語社会で起こっている、うーん、起こりうる問題の解決のために、に向けてですね。		
446					うん。	
447			Zdaj, ta この何らかの展望を与えること、与える[日本語で発話する]。収集者に向かって尋ねる?]		で、「この何らかの展望を与えること、与えるですか[収集者に向かって尋ねる]」。	
448					与える。	
449			展望を与える、それがこの本の[日本語で発話する], aja, da bi, da bi, aha, aha, zdaj, ja, ja, se pravi po, po, この本の目的です[日本語で発話する]。	「展望」を与える、それがこの本の、あ、あ、そのため、そのため、あ、あ、今、はい、はい、はい、つまり、「この本の目的です」。		
450					うん。	
451			Se pravi cilj te knjige je dati nek, neko, se pravi nek opazovalni položaj, s katerega lahko.	つまり、この本の目的は何か、何か、つまり、何か[ができる]展望の理解を与えることです。		
452					うん。	
453			Ne, ponuditi neko staljše, neko.		ね、何かの視点、何かの。	
454					うん。	
455			Neko, umm, umm, nek, nek, toško pogleda, od koder lahko poskušamo na nek način rešiti probleme, ki se pojavijo, ki se lahko pojavijo.	何かの、うーん、うーん、何か、何か、起こっている、起こりうる問題を、何らかの方法で解決してあるための観点[を与える]ことです」。		
456					はい。	
457			V multjezičnovi družbi, ne.		多言語社会で[起こりうる問題]ですね。	
458					はい、これ。	
459			Ja.		はい。	
460					分かっているね。	
461			Ja.		はい。	
462					はい。	
463	p.4	つまり、「様々な民族が日本に移住してきて」「多言語社会」になったので、言語に関して「問題が生じてきている」のが、「私たち」があつた「多言語社会」ということになる。	つまり、様々な民族[日本語で発話する]。	「つまり、様々な民族[漢]」。		
464					今、覆れる?	
465			Ja, no, mislim, pač.		はい、まあ、そうですね。	
466					やめる?	
467			Ne vem.		分かりません。	
468					続ける?	
469			Kolkor, kolkor želite.		どちらでもいいですよ。	
470					最後まで、うーん。	
471			Do konca teksta? To je še 18 strani [笑う]。		テキストの終わりまでですか。あと18ページもありますよ[笑う]。	
472					テキストの終わりまでではなくて、この章の最後まで。	

473			Koliko pa je še do konca?	終わりまで、あとどれぐらいかな。		
474					あと。	
475			Aja, to lahko, do konca poglavja, ja.	ああ、これだったら大丈夫です。章の終わりまで、はい。		
476					分かりました。	
477			Se tri odstavke, ne.	あと3つの段落ですね。		
478					はい。	
479			がんばりますね[日本語で発話する]。	「がんばりますね」。		
480					がんばろうぜ。	
481			勉強になりますからね[日本語で発話する]。	「勉強になりますからね」。		
482					いや、でも、おもしろいね？	
483			Ja, おもしろい[日本語で発話する]。	はい、「おもしろい」。		
484					この、記事が。	
485			Mn. ja, umm, OK, つまり[日本語で発話する] umm, 様々な民族が日本に移住してきて[日本語で発話する]。umm, 多言語社会になったので言語に関して問題が生じてきているのが、私たちが扱う多言語社会ということになる[日本語で発話する]。Ja, slička, ne.	んん、はい、うーん、はい、「つまり」、うーん、「様々な民族が日本に移住してきて」、うーん、「多言語社会になったので言語に関して問題が生じてきているのが、私たちが扱う多言語社会ということになる」。はい、要するにですね。		
486					うん。	
487			kar zdaj različni, pripadniki različnih narodov prihajajo na Japonsko, to postane večjezikovna družba, ne.	様々な民族に属する人々が日本に移住してきているので、多言語社会になるんですね。		
488					うん。	
489			Zato, umm, problemi, ki se pojavijo glede jezika, a ne.	ですから、うーん、言語に関する問題がですね。		
490					うん。	
491			Lih pa mi nekako, umm, umm, razumemo kot več jezikovno družbo, a ne.	私たちが、何か、うーん、うーん、多言語社会として理解していますね[あつかっているということ]。		
492					うん。	
493			私たちが[日本語で発話する]。	「私たちが」。		
494					何、何をあつかう？	
495			Ja sem, sem se.	はい、[文が未完成なので意味不明]。		
496					「私たちが」は誰のこと？	
497			Ja, 私たち[日本語で発話する] ja pač to, ne, on [安田] zdaj govori to stališče avtorjev, ne.	はい、「私たちが」はこれですね。彼[安田]は今、[参考文献の]執筆者の意見について話していますね。		
498					はい。	
499			Kot mi Japonci, ki se moramo zdaj soočiti ali kaj [問題]。	今[問題と]向き合わなければならない私たち日本人とか。		
500					私たち日本人、それとも執筆者のこと？	
501			Ja, ampak avtorji se, jaz razumem, razumejo kot pač [日本人], ne.	はい、でも、執筆者は、私が思うに、執筆者は[日本人]としてですね。		
502					は、はい、そうね。	
503			Ja, ja, na nek način Japonci, ne, in pač ker eni so.	はい、はい、ある意味で日本人ですね。そして、一方は、		
504					私と移民。	
505			移民、移民[日本語で発話する]。ne, ali pa 様々な民族[日本語で発話する]。ne, pa zdaj mi, ne.	「移民、移民」ですね。あるいは「様々な民族」ですね。そして、私たちですね。		
506					はい。	
507			Ker on [安田] pa hoče povedati, da je pač na Japonskem že čisto [日本語で発話する] bila ta jezikovna [日本語で発話する]。ne, in da pač.	彼[安田]が言いたいのは、日本には「もともと」この「言語状況」があったということですね。そして、		
508					誰がこれを書いている？	
509			安田先生[日本語で発話する]。ne.	「安田先生」ですね。		
510					安田先生ね。	
511			Ja.	はい。		
512					はい。	
513	p.4	それが「私たちが21世紀を生き抜いていくためには取り組まなければならない問題」だという。	Se pravi, no, ampak tukaj, ne, 21世紀を生き抜いていくためには取り組まなければならない問題だという[日本語で発話する]。ne.	つまり、まあ、でも、ここはですね、「私たちが21世紀を」、うーん、「生き抜いていくためには取り組まなければならない問題だ」という、ですね。		
514					うん。	
515			In torej, to je torej tisti problem, ne, ki ga zdaj to pač ponovi.	そして、つまり、つまり、これがその問題ですね。ここで再び取り上げる[その問題は]。		
516					うん。	
517			S katerim se moramo mi soočiti, ki, umm, ki pač moramo preživeti skozi 21. stoletje.	21世紀を生き抜かなければならない私たちが、取り組まなければならない問題です。		
518					うん。	
519	p.4	安定した「単一民族・単一言語国家日本」に「外部」から擾乱要素が入ってきた。だから対応しなければならないというのだ。	安定した単一民族、単一言語国家日本に外部から[日本語で発話する]。uff.	「安定した単一民族、単一言語国家日本に外部から」、うわ。		
520					うわ[笑う]。	
521			要素[日本語で発話する]。ne, zdaj, nek, nek 乱[日本語で発話する][笑う]。	「要素」ですね。で、何か、なんと「乱」[笑う]。		
522					はい。	
523			Umm, [電子辞書に「捜」を書いて検索する。] Bomo pa pogledali, umm.	うーん、[電子辞書に「捜」を書いて検索する。]では調べましょう、うーん。		

524				おおすごい、辞書に載ってない、	
525		え[日本語で発話する]? To ことば[日本語で発話する]?	「え」?この「ことば」ですか、		
526				うん、いいえ、いいえ、うーん。	
527		[聞き取り不能。]	[聞き取り不能。]		
528				和英辞書にはないね。	
529		[まだ検索中。] 本当だ[日本語で発話する]。 umm, te tudi v 日本国語大辞典[日本語で発話する] ni.	[まだ検索中。]「本当だ」、うーん、これは「日本国語大辞典」にもありません。		
530				[日本国語大辞典]にはあるでしょう。	
531		Ja, saj em prav napisal, こんでしよう[日本語で発話する]? [正しく書いた漢字を協力者に見せる。] Kaj pa 広辞苑[日本語で発話する]? [電子辞書の広辞苑で調べ。]	正しく書いていますよ。「これでしょう」? [正しく書いた漢字を協力者に見せる。]では「広辞苑」は? [電子辞書の広辞苑で調べ。]		
532				ある?	
533		Tudi v 広辞苑[日本語で発話する] ni.	「広辞苑」にもありません。		
534				ああ。	
535		A nimam prav napisano?	間違ってますか。		
536				正しく書いていると思うよ。[画面を確認する。]うん、正しい。	
537		Pa mi je ne najde, je ni notri.	でも、見つかりません。ありません。		
538				[協力者はまず和英辞書に、に、に書いて、	
539		Ja.	はい。		
540				そして、	
541		Ampak potam lahko zberem druga slovarje, ne.	でも、その後は、他の辞書でも調べられるんです。		
542				ああ。	
543		Umm.	うーん。		
544				広辞苑と国語辞典。	
545		広辞苑、国語大辞典[日本語で発話する]、ne.	「広辞苑、国語大辞典」ですね。		
546				国語大辞典。	
547		[電子辞書内の他の辞書も試す。] Ne vem, kje je to zdaj, razen če je bil še v 漢語林[日本語で発話する] ali pa tukaj[携帯の辞書アプリ]、samo zdaj sem pozabil, kako se je brala prva pismenka.	[電子辞書内の他の辞書も試す。]これ[指]はどこにあるのかわかりません。もしかしたら「漢語林」か、ここ[携帯の辞書アプリ]にあるかもしれません。でも、最初の漢字[視]の読み方を忘れてしまいました。		
548				今は携帯ね。	
549		Ja, če je tukaj služajno v tem slovarju notri, mm, samo tukaj moram še enkrat [書かなければ] kako je bila. [改めて電子辞書に「視」を書いて読み方を検索する。] Rotaj[手へん] pa 見える [「見」][日本語で発話する]、ne, ta[書き続ける]。うわ[日本語で発話する]、kaj se je, zdaj pa ni kjer ni ni. [書き続ける。] 難しいことば[日本語で発話する]。Aja, tukaj pa 読み方[日本語で発話する]、[電子辞書の該当箇所をクリックする。] OK, シャンプ、これ、漢語林[日本語で発話する]、a.	はい、もしかしたらこの辞書にある、んん、でも、ここはもう一度[書かなければ]なりません。どうでしたっけ、「手へん」と見える[「見」]、[改めて電子辞書に「視」を書いて読み方を検索する。]「いいえ、これ、[書き続ける]「うわ」、何、今は何もありません。[書き続ける。]「難しいことば」[発話する]。ああ、ここに「読み方」、[電子辞書の該当箇所をクリックする。]はい、「ジャンプ」、これ、漢語林[発話する]、a.		
550				今他の辞書に移ったの?	
551		いや[日本語で発話する]、tukaj sem zdaj v 漢語林[日本語で発話する] našel to, samo pismenko, samo, a ne, ki ima edino branje kak[日本語で発話する]。	「いや、今はここ、「漢語林」でこれを、漢字だけを見つけましたね。「カク」という[漢字の読み方]しかありません。		
552				カク。	
553		うん[日本語で発話する]。	「うん」。		
554				なるほど。	
555		Čaka, 攪乱[日本語で発話する]、[携帯の辞書アプリに「かかん」を入力して検索する。]	待ってください、「攪乱」、[携帯の辞書アプリに「かかん」を入力して検索する。]		
556				これは何?	
557		Umm.	うーん。		
558				Jdic.	
559		Ja to je, samo malo, to je, aha, tukaj pa je notri.	はい、これは、ちょっと待ってください。これは、ああ、ここには入っているんです。		
560				うん。	
561		攪乱[コウランと発音する][日本語で発話する] dijaskan, 攪乱[コウランと発音する][日本語で発話する]。	「攪乱」[コウランと発音する]ですね。「攪乱」[コウランと発音する]。		
562				うん。	
563		攪乱[日本語で発話する]、disturbance, perturbation[英語で発話する]、a.	「攪乱」、"disturbance, perturbation[英語で発音する]"、あ。		
564				同じことば?というより、同じ漢字?	
565		Isti kanji ja, ker pač to je 視[カクと発音する][日本語で発話する]、攪す[ミダスと発音する][日本語で発話する]、to je kanji tudi za 攪す[日本語で発話する]。Če je prav.	同じ漢字です。はい、これは「視」[カクと発音する]、「攪す」[ミダスと発音する]、「攪す」の漢字でもありますから、もし間違っていないければ、		
566				うん。	
567		Ne, to je pa 乱[ランと発音する][日本語で発話する]、ne, se pravi.	ですね。そして、これは「乱」[ランと発音する]ですね。つまり、		
568				うん。	
569		攪乱[コウランと日本語で発話する]、to je ta aplikacija Imiwa.	「攪乱」[コウランと発話する]、これはこのImiwaというアプリ[検索結果]です。		
570				Imiwa。	
571		Mhm.	うん。		

572					なるほど。
573		「[混乱] [日本語で発話する]。kja smo bili, ja, se pravi, umm, kako bi ta, umm. [電子辞書に「安定」を入力して検索する。]「Stability [英語で発話する]。ja, se pravi, tukaj on [安田] pravi, ne, ta neka stabilna situacija homogenega naroda.		「[混乱]、どこでしたっけ。はい、つまり、うーん、どのようにこの、うーん、[電子辞書に「安定」を入力して検索する。]「Stability [英語で発話する]」はい、つまり、ここで彼[安田]は言っていますね、この何らかの単一民族の安定している状況。	
574					うん。
575		In enotnega, in Japonske kot pač, ne, države z enotnim jezikom in 外語から混乱要素が入ってきて [日本語で発話する]。ne, se pravi so od zunaj prišli neki moteki elementi.		そして、統一[民族]、単一言語のある国としての日本、そして、「外語から混乱要素が入ってきて」ですね、つまり、外から何らかの混乱要素が入ってきました。	
576					うん。
577		V ta situacijo, ki je bila stabilna, a ne, だから対応しなければならぬと云うの[日本語で発話する]。in zato moramo nekako, nek, o nek, neko reakcijo imeti, ne.		この安定していた状況にですね、「だから対応しなければならぬと云うのだ」。そして、だから、何とか、何かの、何かの、何かの対応をしなければなりませんね。	
578					うん。
579		Nekaj, nekaj narediti glede tega.		これを何とか、何とかしなければなりません。	
580					うん。
581		Ampak pravi, da ta njihova pozicija, ki oni, sicer pa ni pobje, da so jeziki enakovrni, da je zabeležena multilingualnost, ampak to razumemo kot, tukaj je bila stabilna situacija ene Japonske, enega jezika in zdaj samo od zunaj so prišli tujci, ti elementi, ne.		でも、この彼ら[執筆者の]立場、彼らは言語が平等だとか、多言語主義が望ましいとか言っていますが、ここは単一民族単一言語という安定の状況があって、外だけから外国人、この[混乱]要素が入ってきたというように思っている、と[安田は]言っていますね。	
582					安田先生はそう思っているか、それともそう思っていないか。
583		Ne, to on [安田] kritizira, kako misijo pač avtorji, ki so pisali to, recimo tukaj, ko citira odlomek iz.		ね、これは彼[安田]はこんなこと、たとえばこの引用した章を書いた執筆者の考え方を批判しているんです。	
584					うん。
585		「多言語社会がやってきた」[日本語で発話する]。ne.		「多言語社会がやってきた」ですね。	
586					うん。
587	o.4	こうした歴史を切断了な認識ができてしまうのも、あるいは「多言語主義」をよそからきた概念としてあつかっているところからきているのかもしれない。	こうした歴史を「日本語で発話する」。umm, 切断了な認識ができてしまうのも、あるいは「多言語主義」をよそからきた概念[カンネンと発音する]としてあつかっているところからきているのかもしれない[日本語で発話する]。ne, amm, 切断了な日本語で発話する] se pogledam. [電子辞書に「切断」を入力して検索する。]	「こうした歴史を」。うーん、「切断了な認識ができてしまうのも、あるいは「多言語主義」をよそからきた概念[カンネンと発音する]としてあつかっているところからきているのかもしれない」。ね[ウィラー]、あ、あ、「切断」を検索します。[電子辞書に「切断」を入力して検索する。]	
588					うん。
589		Umm, cutting, removal [英語で発話する]。[聞き取り不能]。Ja, aha, v bistvu gre za, aha, razumem, ja, pravi, da, こうした歴史を切断了な認識[日本語で発話する]。se pravi taka zavest, ki nekako odraže zgodovino, a ne, ki ne, ki, ki prekine zgodovino, ki ne razume zgodovine.		うーん、「cutting, removal [英語で発話する]」[聞き取り不能]。はい、要するにこれは、ああ、分かりました。はい、「こうした歴史を切断了な認識」と言っています。つまり、歴史を何とか切る認識ですね。歴史を遮る。歴史を理解しない[認識]です。	
590					うん。
591		ができてしまうのも[日本語で発話する]。umm, あるいは「多言語主義」をよそからきた概念[カンネンと発音する] [日本語で発話する]。umm, としてあつかっている[日本語で発話する] [続きを聞いて読む]。Ja, vsejeto je pač, to pravi tudi zato, ker, sam, ker je ta sam koncept, 多言語主義 [日本語で発話する]。multilingualzem, pojem, ki je prišel od zunaj, a ne, in ga razumemo kot nekaj tujega, a ne, kar na Japonskem ni bilo, a ne.	「ができてしまうのも」。うーん、「あるいは「多言語主義」をよそからきた概念[カンネンと発音する]。うーん、「としてあつかっている」[続きを聞いて読む]。はい、多分これは、その、「多言語主義」、多言語主義という概念そのものは外から来たものでずから、よその何かとしてあつかっていますね。日本にはなかったものですね。		
592					うん。
593		In zato pač potem tudi taka zavest, ki, ki nima zgodovinskega vpogleda, ne.		そして、ですから、このような歴史を極めない認識が、が、ですね。	
594					うん。
595		v situacijo Japonske, ne.		日本の状況に對してありますね。	
596					うん。
597	o.4	それでも、外国籍人口が200万人を前後している現在、日本社会の多言語状況をどのように解釈するのか、そしてさまざまな母語の継承および「共通語」として日本語がどのようにふるまうべきなのか、などといった議論は避けて通れない。	それでも、外国籍人口が200万人を [日本語で発話する]。umm, 前後に[動詞「に」も言う]している現在、日本社会の多言語状況をどのように解釈するのか、そしてさまざまな母語の継承、継承[これを継承]の意味がよわからず、自分に言い聞かせるように読む]および共通語[「共」を「普」と間違えてフツゴと発音する]として日本語がどのようにふるまうべきなのか、などといった議論は、[日本語で発話する]。haj je že to, no, čakaj, da vidim, それでも [日本語で発話する]。se pravi, ampak, ne, kjub temu, umm, prebivalstvo, ne, ki mis tuje državljanstvo.	「それでも、外国籍人口が200万人を」。うーん、「前後に[動詞「に」も言う]している現在、日本社会の多言語状況をどのように解釈するのか、そしてさまざまな母語の継承、継承[これを継承]の意味がよわからず、自分に言い聞かせるように読む]および共通語[「共」を「普」と間違えてフツゴと発音する]として日本語がどのようにふるまうべきなのか、などといった議論は、これは[「共」は何でたか。ちよつと待ってください、見てください。]「それでも」、つまり、でも、でも、うーん、外国籍を持つ人口ですね。	
598					うん。
599		Je, ga je.		[人口]は、は。	
600					日本だね。
601		Na Japonskem, ja, umm, je okrog 2 milijona ljudi.		日本で、はい、うーん、約200万人います。	
602					スロベニア人と同じぐらい。
603		Trenutno ne, ja [英]: Umm, se pravi, in zato pač, umm, どのように解[「訳」]は読み飛ばす。日本語で発話する]。zato kako pač interpretiramo Japonsko, multijezično situacijo japonske družbe, そしてさまざまな母語および共通語[「共」を「普」と間違えてフツゴと発音する]日本語が[日本語で発話する]。umm, aha, ker to je, けい, けい, 継承 [日本語で発話する] je, pač nasledil, naslediti. [電子辞書に「継承」を入力して検索する。] ja, naslediti je, poobedovati, se orati. [動詞無音]。Umm, se pravi japonsčina, ne, ki 普通、共通語[「共」を「普」と間違えてフツゴと発音する]として日本語 [日本語で発話する]。		現在はですね。はい[英]、うーん、つまり、ですから、うーん、「どのように解[「訳」]は読み飛ばす」。ですから、日本の、日本社会の多言語状況をどのように解釈するのか、「そしてさまざまな母語および共通語[「共」を「普」と間違えてフツゴと発音する]日本語が」。うーん、ああ、これは、「けい、けい、継承」です。継承するということ意味です。「電子辞書に「継承」を入力して検索する。」はい、継承する、受け継ぐ、つまり、[動詞無音]、うーん、つまり、日本語でですね、「普通、共通語[「共」を「普」と間違えてフツゴと発音する]として日本語」。	
604					これは「フツゴ」なの？

605		Aja,共通[日本語で発話する].pardon[笑].共通語として日本語[日本語で発話する].umm,se pravi,ne,japonščino,kot skupni jezik,a ne,そしてさまざまな母語の継承[日本語で発話する].「続きを聞いて読む。」Zdaj,tukaj,da vidimo,če to razumem.Umm.[8秒間無音.]Ne kaj se nanaša,še,そしてさまざまな母語の継承および「およぶ」を「およぶ」と読み間違える[日本語で発話する].umm,がどのようにふるまうべきか[日本語で発話する].umm,se pravi,OK,共通語として日本語は分かれますが様々な母語の継承および共通語として日本語[日本語で発話する].umm,何が[日本語で発話する].da,および[日本語で発話する].je,tukaj,in,a,ne.	ああ「共通」、失礼しました[笑]。「共通語として日本語」、うん、つまり、ですね、共通語としての日本語ですね。「そしてさまざまな母語の継承」、続きを聞いて読む。」では、ここ、これを分かっていくか見てみましょう、うん、[8秒間無音]。「そしてさまざまな母語の継承および「およぶ」を「およぶ」と読み間違える」共通語として日本語は何とつながっているんですか、うん、「がどのようにふるまうべき」、うん、つまり、はい、「共通語として日本語は分かれますが様々な母語の継承および共通語として日本語」、うん、「何が」、「および」はここでですね。		
606			はい。		
607		Se pravi,samozana matere jezik[日本語で発話する].umm,to je,umm,tisti,ki pač,podejajo razne matere jezik,ne kot skupni jezik,pa pač imajo japonščino ali kaj,ne vem,v tem smislu ali kaj,ki imajo,ki govorijo različne matere jezik,ampak,	つまり、「さまざまな母語の継承」、うん、これは、うん、さまざまな母語を継承して共通語が日本語だということだから、分かりません、この意味は、さまざまな母語を話しますが、		
608			続ける?		
609		Ja,kot skupni jezik pa japonščino,ne.	はい、共通語は日本語ですね。		
610			これはどのようにふるまうべきか。		
611		Ja,ker,tukaj je furumau[日本語で発話する].「電子辞書」に「ふるまう」を入力して検索する。]Je pa,kakoo se pač obnaša to ali kaj.	はい、ここは「ふるまう」ですから、「電子辞書」に「ふるまう」を入力して検索する。]はい、要するに、どのようにふるまうのかとですか。		
612			うん。		
613		などといった議論は[日本語で発話する].aha,kaj sem rekel,da moram to pogledat.[「避ける」を入力して検索する。]Ja,saj se mi je zdelo,da je to izjema[日本語で発話する].避けて避れない[日本語で発話する].umm,「電子辞書」で検索する。見出し語は不明。]Umm,no,se pravi,ta,teh,te sem,などといった議論は避けて避れない[日本語で発話する].tak,tem,tem,tem argumentom ali kaj se ne da izogniti.	「などといった議論は」、ああ、これを避ければいけないと言いましたか。[「避ける」を入力して検索する。]はい、これは「避けたらと思ったのだから、避けて避れない」、うん、「電子辞書」で検索する。見出し語は不明。]うん、まあ、つまり、これ、これ、これ、これ、「などといった議論は避けて避れない」、こう、この、この議論とは避けられません。		
614			うん。		
615	o.4	そしてそれは、「グローバル化」の問題を省いて、単なる言語問題を越えて日本社会のあり方を問うことになるのであるが、議論は低調である。	ここはまだよく分かりません。「そしてそれはグローバル化の問題を省いて単なる言語問題を越えて日本社会のあり方を問うことになるのであるが、議論は」、うん、「低調」?		
616			うん。		
617		「電子辞書」に「低調」を入力して検索する。]To moram pogledati,aha,substandardno,infornio,ne,低調である[日本語で発話する].Se pravi,ja,umm,tukaj mi je sicer v problem nekako jasno,ampak je kompleksen stavek,se mi zdi,ne,cel ta odstavek.	「電子辞書」で「低調」を入力して検索する。]これは調べなければ、ああ、低水準、貧乏ですね。「低調である」、つまり、はい、うん、ここは大体分かっているのですが、複雑な文だと思いますね、この段落全体が。		
618			うん。		
619		Umm,se pravi,če imamo danes 2 milijona ljudi s tujim državljanstvom,a ne.	うん、つまり、現在外国籍を持つ人が200万人いれば、		
620			うん。		
621		kako,kako interpretirati japonsko družbo kot več jezikovno situacijo.	日本社会を多言語状況として、どの、どのように解釈すればいいのか。		
622			うん。		
623		In potem pač situacija,kjer različne,različne matere jezik,podejajo a ne,ni,in japonščina kot skupni jezik,どのような[日本語で発話する].kako naj se to pač,ne vem,furumau[日本語で発話する].kako naj bi se s tem,kako naj bi se v tem kontekstu obnašati,などといった議論は[日本語で発話する].se,tem,se tem argumentom ne moremo izogniti,in,そして、それはグローバル化の問題を省いて[日本語で発話する].in to potem,umm,vključuje pač problem globalizacije,umm,単なる言語問題を越えて[日本語で発話する].in pač presega preprosto,to jezikovno vprašanje.	そして、「おひらき」、さまざまな、さまざまな母語を継承してですね、そして、共通語の日本語という状況です。「どのような」、どのようにこれを、分かりません。「ふるまうべき」、これでどのように、この文脈でどのようにふるまうべきなのか。「などといった議論は」、この、この議論は避けて避けません。そして、「そして、それはグローバル化の問題を省いて」、そして、これは、うん、グローバル化の問題を省いて、うん、「単なる言語問題を越えて」。そして、この、単なる言語問題を越えて、		
624			うん。		
625		umm,日本社会のあり方を[日本語で発話する].in je treba pač vprašati tudi po samem ustraju japonske družbe,a ne.	うん、「日本社会のあり方を」、そして、日本社会の構成そのものも問わなければならないですね。		
626			うん。		
627		Umm,ampak ta 議論は低調である[日本語で発話する].ampak taki argumenti so ne,ne,ne,[笑]reprezitivni ali pa,karkoli,ne,ne,nezadostni.	うん、でも、この「議論は低調である」、でも、このような議論は、不、不、不、[笑]不徹底、あるいは、なんか、不、不、不十分です。		
628			うん。		
629		Zdaj pa,zdaj pa ne vem,teško razumem celotne stavek,zdaj,ど、どんな議論が低調であるか、何が、ちよっと面白い文[日本語で発話する].	で、で、分かりません。文全体があまりよくわかりません。「ど、どんな議論が低調であるか、何が、ちよっと面白い文」。		
630			うん。		
631		ちよっと私がよく理解できない文です[日本語で発話する].	「ちよっと私がよく理解できない文です」。		
632			うん。		
633	o.4	ということで、近代日本に削いで「多言語主義」を論じるには、まず「多言語主義」から離れなければならない。より徹底的にみるには、多言語状況がどのようにとらえられてきたのか、という観点から近代日本の場合を論ずるべきだ。その際に、「社会の多言語状況をどうとらえてきたか」という側面と、「個人が多言語状況をどうとらえてきたか」という側面から考えることにしたい。	「という」。		協力者が3つの文を行き来して理解しているため、「文章」には1つではなく、3つの文を記載した。
634			最後まで読む?はい?		
635		Ja,ということで近代日本に[日本語で発話する].umm,ah,kaj je,もう疲れてるね[日本語で発話する][笑].	はい、「ということで近代日本に」。うん、ああ、何か、「もう疲れてるね」[笑]。		
636			先生疲れてるね[笑]。		
637		Kaj je že to.[電子辞書]に「則」を書いて検索する。	これ[則]は何でしたっけ。[電子辞書]に「則」を書いて検索する。		
638			これ?		
639		則する[日本語で発話する]?	「則する」?		
640			うん。		

641		Aha, 前する[日本語で発話する]. conform, agree with[英語で発話する]. aha, 近代日本に則して多言語主義を論じるには、まず多言語主義[日本語で発話する]. umm, から離れなければならない[日本語で発話する]. より ああ、最後に難しい漢字がいっぱい[日本語で発話する].	ああ「前する」. conform, agree with[英語で発話する]. ああ「近代日本に則して多言語主義を論じるには、まず多言語主義」. うーん、「から離れなければならない」. 「より、ああ、最後に難しい漢字がいっぱい」.	
642				[笑う.]
643		[笑う.] [電子辞書に「解」を書いて検索する.]	[笑う.] [電子辞書に「解」を書いて検索する.]	
644				これ? 「より」の後?
645		Ja, よりのあと、全然[日本語で発話する].	はい、「よりのあと、全然」.	
646				全然[笑う.]
647		知りません[日本語で発話する].	「知りません」.	
648				大変[笑う.]
649		To je, ee, nekaj, ta[漢字] je 解く[日本語で発話する]. potom je pa še en kanji[笑う]. [電子辞書に「解」を書いて検索する.]	これ[解]は、ええ、何か、この[漢字]は「解く」、そして、もう1つ漢字が[笑う]. [電子辞書に「解」を書いて検索する.]	
650				ああ、書いているね。
651		それも全然[日本語で発話する]. Kaj, rišem?	「それも全然」. 何、[私が]描いていますか? [ペンで漢字を描いていると表現する.]	
652				今、描いている[笑う]. ペンで。
653		Ja, rišem.	はい、描いています。	
654				そうか、描いているのか。
655		Kanji s ovinšnikom, ker pač, če ne vem 読み方[日本語で発話する]. ne.	ペンで漢字を[描いています]. 「読み方」が分からないので。	
656				はい、はい。
657		Je potem najbolje, 俯瞰する[日本語で発話する]. overlook, look upon[英語で発話する]. [聞き取り不能. おそらくもう1つの英語訳]. Aha, se pravi nadzorovati ali kaj.	最も[最後まで言いきらない.]. 「俯瞰する」. overlook, look upon[英語で発話する]. [聞き取り不能. おそらくもう1つの英語訳]. ああ、つまり、監視するという意味ですか。	
658				うん。
659		より俯瞰的に見るには[日本語で発話する]. aha, se pravi, če hočemo bolj tako, imeti nek oddaljen pogled ali pa, ne.	「より俯瞰的に見るには」. ああ、つまり、もっとこまごま見なければ[おそらく「客観的に観察する」のような意味]とかがすね。	
660				うん。
661		多言語状況がどのようにとらえられ、とらえられてきたのか、という観点から近代日本の場合を遡うほかない[日本語で発話する]. その際に、社会の多言語状況をどうとらえ、どうとらえてきたかという側面と、個人の多言語状況をどうとらえてきたかという側面から考えることにしたい[日本語で発話する]. Se pravi, umm, とうとうと[日本語で発話する]. se pravi, ta, ta, umm, kot, ko, kadar, ko, ko torej bom, razmišljamo, ali pa.	「多言語状況がどのようにとらえられ、とらえられてきたのか、という観点から近代日本の場合を遡うほかない」. その際に、社会の多言語状況をどうとらえ、どうとらえてきたかという側面と、個人の多言語状況をどうとらえてきたかという側面から考えることにしたい. つまり、うーん、「とうとうとで」、つまり、この、この、うーん、場合、側、場合、場合、つまり、考える際、あるいは、	
662				うん。
663		Ko, ne, zdaj hočemo razumeti umm, več jezikovnost, ali pa multilingvalizem v sodobni japonski družbi, umm se moramo najprej odmakniti od tega multilingvalizma, a ne.	場合、今は理解したい場合]ですね。うーん、「多言語[主義]」[国語語「veščikovost」で書う]。あるいは近代日本社会の「多言語主義」[外来語「multilingvalizem」で書う]。うーん、まずはこの多言語主義から離れることですね。	
664				うん。
665		Umm, če hočemo pogledati bolj oddaljeno, a ne, kako, umm, 多言語状況がどのようにとらえ、とらえられてきたのか[日本語で発話する]. kako so pač, kako je bila do zdaj razumljena večjezikovna situacija, a ne.	うーん、もっと遠くから[おそらく「客観的に」]を意味する]見なければ[おそらく「客観的に」]観察する]状況がどのようにとらえ、とらえられてきたのか? つまり、どのように、多言語状況が今までどのように理解されていたかですね。	
666				「とらえる」ね。
667		Ja, umm, という観点から[日本語で発話する]. iz tega iz te, po, no, umm, ne tega. [電子辞書に「観点」を入力して検索する.] Se pravi, umm.	はい、うーん、「という観点から」、この「観点」から、から、うーん、な「フラー」、この、[電子辞書に「観点」を入力して検索する.] つまり、うーん。	
668				[聞き取り不能.]
669		S tega stališča, a ne.	この観点からですね。	
670				ああ、「観点」.
671		Ja, 観点[日本語で発話する]. moramo, umm, 近代日本の場合[日本語で発話する]. umm, v primeru sodobne, japonske, ne, umm, moramo [電子辞書に「遡う」を入力して検索する.] Kaj je potem, potem, ah, moramo, ja, začetni, ali pa od tam lit, a ne.	はい、「観点」です。ほかない、うーん、「近代日本の場合」、うーん、近代日本の場合]にですね。うーん、ほかない。[電子辞書に「遡う」を入力して検索する.] では何が、[関連した見出し語を選び、ため息をつく。そして、新しいのを選ぶ]。ほかない。はい、始める。あるいはそこから「読み込む」。「近代日本の場合」を遡うということ]ほかないですね。	
672				うん。
673		ほかない[日本語で発話する]. ne, 遡うほかない[日本語で発話する]. Se pravi, umm, v tem primeru, umm, moramo.	「ほかない」ですね。「遡うほかない」。つまり、うーん、この場合は、うーん、うーん、[考え]なければなりません。	
674				ほかない。
675		Ja, その際に、社会の多言語状況をどうとらえてきたか[日本語で発話する]. se pravi, ne, moramo torej pogledati s strani, ne, kako je ta več jezikovna situacija družbe, ne, bila razumljena, in kako je bila razumljena pač večjezikovna situacija posameznikov, ne.	はい、「その際に」、社会の多言語状況がどうとらえてきたか? つまり、ですね、この社会の言語状況がですね、どのようにとらえられてきたか、そして、個人の多言語状況がどのようにとらえられてきたかという、[2つの]側面から考えなければなりませんね。	
676				うん。
677		Tudi s te si strani bi rad torej, to bi rad razmišljal o tem, a ne.	つまり、この側面からもこれ、これについて考えたいということですね。	
678				うん、うん。
679		Umm.	うーん。	
680				この[協力者が読んだ]記事でね。
681		V tem članku, ja.	この記事で、はい。	
682				ここで終了。